

愛知教育大学附属岡崎中学校 ディベート同好会

第30回全国中学・高校ディベート選手権(ディベート甲子園2025)
中学の部 3位

Story わたし物語



鈴木さん 岡野さん 山下さん 花尻さん 丸地さん 古川さん

事前に発表されたテーマについて、4人対4人で肯定側と否定側に分かれて第3者を説得する形で議論を行う「ディベート」という競技。論理的思考力や、分析能力、説得力など多くの力が問われるディベート競技において、8月に千葉市で開催された「ディベート甲子園2025」の中学の部で愛知教育大学附属岡崎中学校のディベート同好会が見事全国3位入賞を果たしました。今回の入賞は、昨年の優勝に引き続き2年連続。17人が所属しているディベート同好会のうち今大会では2、3年生メンバーの6人で全国に挑みました。

今回、中学の部の議論テーマは「日本は中学生以下のSNSの利用を全面的に禁止すべきである。是か非か」。



2月にテーマが発表されてから、テーマに関係する文献を集め、肯定側・否定側のどちらの立場でも議論ができるようにたくさんの準備を行いま

した。集めた参考資料の数は715点。試合直前までどちらの立場で議論するかが分からないため、休みの日も図書館などに6人で集まり、自主的に活動を行いました。「どのような議論が行われるか、考えられるすべての想定に対しての準備を行ってきました」と話す花尻さん。しっかりテーマと向き合い、資料を集め、話す練習も何度も繰り返し、準備万全で挑んだディベート甲子園。前回王者というプレッシャーもある中、チームの強みである準備力と個々のスピーチ力を活かした議論で、失点0で準決勝まで進むも、ここで惜敗。「全国優勝を目指して頑張ってきた分、とても悔しい。でも目標に向かって頑張れたのはいい経験だった。何より楽しかった」と山下さんはこれまでの活動を笑顔で振り返ります。

高校でもディベートを続けていきたいと話さ姿は、自信に満ちています。ディベートを通して身につけてきた準備力や考えて話す力は6人にとって確実な自信となり、今後社会に出た時に、大きな力となっていくことでしょう。

Mayor's Column

岡崎再生

「岡崎に生まれて
本当に良かった！」
そう思えるまちづくりを



岡崎市長 内田 康宏

安心・安全な暮らしのために 防犯対策の見直しを

補助額などの詳細については、27ページをご覧ください。

本市では、市民のみなさまが安心・安全に生活することができる地域社会の実現に向けて、警察や地域が一丸となり、自主防犯活動団体への支援、警察と連携した防犯啓発活動を始めた街頭防犯カメラの設置や防犯灯の整備など、様々な防犯活動に取り組んでいます。これらの取り組みによって、刑法犯認知件数は、過去最高の8,995件に達した平成16年から、近年は2,000件を下回るまでに減少しました。しかしながら今年に入り、**市内で侵入盗被害や自動車盗の被害が急増**しており深刻な状況であります。

そのため迅速な対策が必要であると認識し、この度、市民のみなさまが日常的に安心・安全に暮らせるように、自ら対策いただくための防犯用具(住宅に取り付ける防犯カメラやセンサーライト、自動車盗難防止用のハンドルロック、タイヤロック、防犯砂利、位置情報特定装置、自転車ロック、防犯ブザー)の購入費に対して、**1世帯最大3万円まで補助**をいたします。ぜひこの機会に補助金を活用し、ご自身の防犯対策を見直していただきたいと思います。